



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2024.11月第672号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

今、世の終わりを思わせるような時代の中にあつて、私たちキリスト者はいかに生きていくのか。

「神の約束に従つて、義の宿の新しい天と新しい地を待ち望む」(Ⅱペトロ3:13)むこと。このみ言葉は、そんな私たちにとつて、大変重要なことを教えてくれている。

しかしながら、注意しなければならぬのは、それが決して「世の終わり」を待ち望むのではなく、「新しい天と地」を待ち望むということなのだ。人類の破壊ではなく、義の宿の新天新地。まさに、主が、宣教の初めに言われた「神の国は近づいた」(マルコ1:15)を生きたることなのだ。

この神の国は、主イエスの最初の宣言によつて成就し、主の復活と昇天の後に、待ち望むものとなった。それは、過ぎ去つてしまった過去の出来事でもなく、また遅れている未来の出来事でもない。「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は

一日のよう」(Ⅱペトロ3:8)なのである。私たちはそのことに気づいていない。

神学者カール・バルトの言葉借りるならば、「再臨が『遅延』しているのではなく、我々の覚醒(めざめ)が遅延しているのである」。戦争の拡大が続く中東情勢、終わりの見えないロシアとウクライナの戦争、ま

瞑想

私たちは、神の約束に従つて、義の宿の新しい天と新しい地を待ち望んでいます。

Ⅱペトロ3:13(協)

主幹牧師 榎本 恵

ことしやかに語られる中国の台湾武力侵攻など、そんなニュースに接するたびに、否が応にも、恐れと不安が募ってくる。インターネット上には、牧師と称する人が、まことしやかに聖書の預言と、世の終わりの近いことを得意顔で解説する。もはや、それを荒唐無稽のお話として片付け、無視することとはできない。

も、大事なことは、そこではない。大事なことは、ただ一つ、神の国は今ここに、「私たちの只中にある」ということなのだ。私たちの目が開かれたなら、私たちが目覚めたなら、この世の終わりを思わせるような、どうしようもない世界の只中にも、神の国を見出すことができる。だから恐れることも、諦めることもない。ただ、その約束を信じ、落ち着いて、今の時を生きていこう。「わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に輝くときまで、暗いところに輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意していただく(Ⅱペトロ1:19)。

友よ、神の国の約束は、必ず私たちの心の中に昇ってくる。たとえどんなに真つ暗闇のおぞましい世界であつても、明けの明星を私たちは必ず見つけ出すことができる。目覚めたものの、覚醒したものとなるうよ。

第47回新潟アシラムの恵み

吉澤 昭男

9月20、21日と恒例の新潟アシラムが「ホテルざぶりん」で開かれた。一泊アシラムとも言っており、ほかミニアシラム(半日)、一日アシラム



ムがあり、年3回のアシラム集会を持っている。

今回初めて参加された方が「第47回というのは47年前から始められたということですか?」と言われた。コロナ禍の時に1回休み、昨年は「国際正義・平和アシラム」に合流したので、49年前に始まったことになる。参加者一同「よくぞこれまで続けられたものだ!」と改めて歴史の重みを感じ入ったことである。

参加者の中には、若き日、第2回アシラムが某「お寺」で榎本保郎先生を迎えて行われたときに初めて参加したという方もおられる。ちなみに私は2001年9月の第28回が初参加であるので、あ

れから23年が経過したことになる。当時の私は60歳からの柏崎キリスト教会牧師2年目の駆け出しであり、奉仕者は聖契神学校の師、故村瀬俊夫先生であった。

今回もアシラムセクターから榎本恵主幹牧師を奉仕者としてお迎えできたこと感謝している。第40回(2014年9月)以来、毎回榎本先生にきていただき、ご指導と多くの恵みを受けている。

今回は参加者が29名と多く、熱気が感じられた。主題は「近く、遠くおられる主」、主題聖句は「私は、近くにいれば神なのか。―主のことば―遠くにいれば、神ではないのか。」(エレミヤ書23章)、静聴箇所はエレミヤ23章と28章であった。

信仰生活において、神が遠くに感じられる

こともあるし、また、近くに、共におられる主を感じることもある。感情に左右されたり、厳しい現実には「神なんかいない」と不信仰になつてしまう。自分の置かれた状況によつて、神を遠く感じたり、近く感じたりするのが私たちであるが、神は常に近くにおられるのである、「天にも地にも、わたしは満ちているではないか。」(エレミヤ23・24)第1回の静聴において、私はこのように受け止めることができた。

なぜ、アシラムに來るのか。なぜアシラムで恵まれるのか。今回のアシラムが終わつて、家長の方からお葉書をいただいた。祈つてますよ、との励ましとともに「アシラムは信仰の原点

です。」とあった。

アシラムは信仰の成長に益となるものである。榎本保郎先生は、信仰告白が点だとすれば信仰生活は線のように持続するものでなくてはならない、と言ひ、信仰が生活の中に受肉しているという趣旨を語っておられるが(「ちいさな牧師アシラムを語る」より)、これこそが、アシラムの恵みであり、アシラム集会の必要性である。

今回は、思いがけずゴスペルシンガーの横山大輔・和子さん(お



沖縄巡礼の旅にご夫妻で参加された。伊江島、城山登山口にて。2024.6月



主の御愛 さいえざるもの無き 涸沼湖に 朝陽輝き 祝福満てり

小林佳子姉 2022年3月26日召天



水戸バプテスト教会にて開催感謝です。小野悦子姉は前列中央恵師右隣。

水戸バプテスト教会

アシシラムの恵み

仕事の途中)が参加され、賛美も披露され良き交わりの時となった。また、「天上の音楽」や昨年の「国際正義・平和アシシラム」でも顔なじみの日比野則彦兄も参加、奏楽の奉仕をして下さった。

(新潟アシシラム事務局)
(日本伝道福音新潟聖書教室)

今回のアシシラムで導かれたファミリーの交わりやレビの時が祝福され、来年も、喜びと感謝をもって集まれるよう願うものである。

小野悦子 55、6年前に、呉アライアンス教会で、第一回呉アシシラムが始まり、榎本保郎師が奉仕してくださいました。「アシシラム10の心構え」が心に残っています。

その後、結婚して茨城の日立、水戸と転居して30年過ぎた頃、母教会の小宮山林也師が水戸でも常磐アシシラムがあることを知らせてください、参加しました。後で、小林茂男

兄、佳子姉も参加されていたことを知りました。佳子姉には、弱くなった時、祈りと共に何通か便りをいただきました。励まされました。

今は、水戸バプテスト教会に行っています。そして、昨年に続いて今年も水戸教会一日アシシラムがあり、榎本恵師が奉仕してくださいました。

エレミヤ23章、主題は「わたしはただ近くに神なのか」静かにゆっくり読む中で、「天をも地をもわたしは満たしているではないかと主は言われる(エレミヤ23:24)」本当にその通りです。

私は、5年前から右半身が不自由になり、生活すべてがゆっくりになりました。朝起きると時間通りに太陽が昇り、夕方時間も通りに日が沈む。不思議とすばらしさを

感じつつの毎日です。つらい悲しい時にも、楽しい豊かな時にも主は共にいて下さいました。

アシシラムという恵

みの不思議なつながりの中で、主は今年もアシシラムに参加させてくださいました。感謝です。(水戸バプテスト教会)

第3回 ユースリトリート

アシシラムに参加して2

今泉 晶久

分かち合いの時間になったけれど、あまり自分の心を開いて話すことはできなかった。同世代の人たちに照れや恥ずかしさがあったのかもしれない。でもみんなはよく心の内を話してくれた。その内容が自分にも当てはまり共感できることがたくさんあった。

がユースで集まる意義のひとつだと思った。過去にいくつかアシシラムに参加させてもらったが、同世代だからこそできる共感や、悩んでいるのは自分だけではない、と思える安心感はユースならではの感覚だと思う。

「これからどっちに進もうか」「いま学んでいることに習熟できるだろうか」「神に心を向きたいけれど、なかなか向かない。」など。この共感こそ

帰りの電車で、同じファミリーだった智美さんと一緒だった。言葉や所作のひとつひとつをゆっくりと丁寧に扱う。そんな好印象を受けた人だ。自分とはだいぶ違うタイプかもしれない。



榎本和子母、てるこ師との大切なひととき。
琵琶湖畔にて。2017年11月

そんな彼女が「晶久くんはなんでキリスト教と出会ったの？」と質問してきた。少し照れもあったが、自分の経緯を話した。すると彼女は、ニコリして言った。「そういう話を聞きたかったのよ」。

家に帰ってそれを思い返した。するとすごく満たされた気持ちになった。「そういう話をしたかったんだよね！」。

本当はみんなに自分のことをもっと話したかったのだ。でも後悔

したわけではなかった。むしろ帰りの時間を使って気づきを与えてくれた神に感謝した。

そしてアシュラムについて思った。みんなが集まって神の恵みを感じることは大切。

しかし、もっと大切なことは、日常にある神の恵みに気づく毎日を送る。送り続けていくこと。

そのきっかけとして、手段として、神の道具として、アシュラムセンターが存在するのではないかと。

みなさん本当にありがとうございますとございました。

シメオン黙想の家は僕の部屋くらい綺麗でした。

(終)

(恩師榎本てる子師に薦められ、修道場生活2017年11月、半年弱。事務室等ピカピカに)

平和合同祈祷会の始まりについて

1941年、太平洋をはさみ戦争回避を願い徹夜祈祷をした二人の信仰の友、スタンレー・ジョーンズ師と賀川豊彦師。しかし、彼らの血の滴るような一週間の祈りにもかかわらず、12月8日について日本帝国軍の真珠湾攻撃によって太平洋戦争が開戦された。そして4年後の1945年、アメリカ軍による広島、長崎への原爆投下により戦争は終わりを告げた。

あの日から70年目の2011年12月8日、S・ジョーンズ師と賀川豊彦師の徹夜祈祷を記念し、両師の信仰を受け継ぐアシュラムセンターと神戸イエス団教会は、平和を願って祈りを捧げるために再び集い、今に至る。今年は、太平洋戦争勃発から82年。そして、世界中の武力闘争に加え、ロシアのウクライナへの攻撃は未だに止まず、イスラエルとパレスチナの戦果は止むことなく、多くの犠牲者を出し、世界中へ不安を煽っている。

(平和合同祈祷会の式次第より引用)



2021年12月8日アシュラムセンターにて。上内鏡子師、神戸からの皆様と共に。



カフェちいろば聖書入門10月。初めて参加された方々も。またどうぞ！



大阪聖書教室。参加される方々も少し増えつつ。アベル門宣教師も、そろそろデビュー？来日2年目！

いえじま 雑記 17 調律

あしび



最近ピアノを調律して頂きました。昔、母がピアノ教室をこの島で使っていたときに使っていたピアノで、何年間も倉庫の中で眠っていたので、カビが生え、埃まみれで、音も狂い放題のピアノでした。しばらくはそのまま使っていましたが、子どもたちも音が狂っているのはピアノを弾くのも楽しくないようで、いつの間にか弾くのをやめてしまい、これはもったいないと調律師さんを探しました。

ところが、ここは沖縄の離島の伊江島。わざわざフェリーに乗って調律に来てくれる方を探すのは容易ではありません。伝手を頼って調律師さんに来て頂いたのは、つい先日のことでした。埃とカビをきれいに払い、弦にオイルを塗り、ひとつひとつの音を合わせてもらい、ピアノが生まれ変わります。思わず新しい曲を練習してみたくなってしまったような、そんな音になりました。と言っても、また狂ってきているのですが。

韓国のハン・ヨンエさんの歌に「調律」という曲があります。「眠るお天道様よ もう起きてください 昔の空の光のように 一度調律してください」と歌う歌です。世界もまた調律してもらいたいような状況が続いています。わたしたちもまた、世界の調律師を探し求めたいと思います。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）

I Love Taiwan Mission (ILT) に参加して 2

今回は日本、韓国、インド、アメリカ、カナダ、ニュージーランドから参加者があり、台湾のメンバーも併せて50名以上の若者が集いました。台湾の若者たちは、私が日本人だと言うとすぐに漫画やアニメについて話しかけてきて、私以上に知っていたのですがに若いな—と思いました。(ジェネレーションギャップを感じるにはまだ早い)

オリエンテーションでは、主催者である台湾基督長老教会(PCT)の沿革を寸劇で紹介していただきました。ユーモアを織り交ぜた内容でしたが、その中には日本統治時代の悲しみもありました。

様々な講師のメッセージもあり、その中で彼らはエキュメニカルであることを何度も強調していました。ただ単にキリスト教諸教の一致を叫んでいるのではありません。様々な国による統治や原住民、漢民族をはじめとした多民族との共生に由来する異文化交流、融合、どれも悲惨な背景がありますが、彼らはその上に立つ現実を神様の造った多様な被造物として喜んでいるように感じました。

また、台湾の基督教の偉人として高俊明先生の紹介がありました。彼らは高先生を本当に尊敬し、誇りに思い、それが若者たちにも受け継がれていました。そんな方がアシュラムを支持し、台湾愛修會を続けてこられたことは真に不思議な導きです。

多くのプログラムがある中で、台湾とPCTの歴史について学ぶ時間があり、台北の住宅街の中にある義光教會に行きました。そこは、台湾の民主化に大きな影響を与えた美麗島事件をきっかけに起きた殺人事件の現場でした。そして教會がその場所を引き継ぎ、保存、継承していました。合わせて見学した中正紀念堂でも美麗島事件の展示があり、台湾の過去と現在の繋がりに基督教が大きく関わっていることに驚いたとともに、このことをよく知らなかった自分を恥じました。

その他、レクリエーションとしてゲームをしたり、ナイトマーケットを巡ったり楽しい交わりの時もありました。

こうして三日間のオリエンテーションが終わり、小グループに分かれてそれぞれ派遣先の教會に向かいました。これから11日間の未知のプログラムが始まります。(つづく)

榎本 光太



池谷治朗兄の召天日近くに、ご両親が、ご来訪。シメオン庭のプレート側で、讚美と祈りを。また風が吹きました。晩には照雄寿子ラーメンを、皆でいただきました。感謝！



オリーブの里アシュラムにて。この場を開拓された金山良雄師、英子様ご夫妻が2日目にご参加。保郎師との出会いを今も大切に守り、アシュラムセンターの働きを祈り支えて下さっています。



ブラジルから寺尾貞亮師、修道場アシュラムに。幼少期に長崎で被爆、今も治療のため通われている。主の証しびととして。

あとがき

アシュラムセンターの今年度は、今月で終わりを迎える。いよいよ来月12月より、新年度、そしてアシュラムセンター創立50周年の記念の年となる。

中学2年生の夏、四国今治から泣く泣く転校してきた、あの日から50年がたつ。2年後の高校1年生で、父保郎が召され、我が家もアシュラム運動もどうなることかと不安と恐れの中に突き落とされた。しかし、主は生きておられる。今、この50年の記念の年を迎えるにあたり、まさに「数えてみよ、主の恵み」であつた。しかし、それは「あつた」という過去形ではなく、私たちは、その先を目指し、歩んでいく。

前途は、厳しいだろう。しかし、その道も必ず、生きておられる主とともに歩もう。49年目の終わりの月に、私はこんなことを思っている。どうか、アシュラムの友よ、私たちと共に、心を一つとし、祈りを合

(恵)



神の恵みにより、今月の
わたしがあつたのです。ヨリ子
和子

「95才を御祝い下さった友への御礼文より」
いよいよ天に移籍する日が近づいたと思いますが、
るつ子は「マダマダ」と意味ありげに笑います(その後、
3年弱で移籍!)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり!

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

11月の聖書教室など

1(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
9(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
11(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
12(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)
18(月)	使徒書に学ぶ会 (Zoom PM7:30)
19(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
20(水)	みんなのカフェいちろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
22(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
24(日)	ちいろば牧師記念チャペル礼拝 (PM5:00)
25(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
26(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
26(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
27(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
28(木)	第14回 合同平和祈禱会 (神戸イエス団教会 PM2:00)

11月のアシュラムなど

4(月) 6(火)	第49回 京浜アシュラム (大学セミナーハウス) 奉仕者 榎本 恵師	0428-49-6768 京浜アシュラム事務局
15(金) 16(土)	第22回 愛知アシュラム (南山学園研修センター)	052-721-0045 仙敷正俊師
21(木) 22(金)	第46回 阪神アシュラム (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
21(木) 23(土)	修道場アシュラム (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

12月以降のアシュラムなど

12月7(土)	クリスマス 礼拝 昼12:00~ アンナ祈りの家にて ♪チャイム演奏・ 大山シエフのカナツペバツフェ
12月14(土)	シメオン黙想の家 見学会& みんなのカフェいちろばの「クリスマスランチ」 参加費 4,000円 申し込み12/10(火)まで
1月16(木)~18(土)	第50回 年頭アシュラム 講師 平野 克己師

10月号あとがきにミスがありましたこと、
お詫び申し上げ訂正させていただきます。

- ・18 行目…嚙矢→講師
- ・19 行目…加藤常明牧師→常昭牧師

☆アシュラムセンター早天祈禱会は、まずローズン
ゲンと加藤常昭牧師(説教塾主宰。2024年4月26
日召天された。95才)の『祈り』を恵師が朗読し、始められています。



みことば



日本キリスト教団取手教会
牧師 金子敏明

「上手いかずに、何も話せない、この僕に」
ルカ1:5~25

イエス時代のユダヤの祭司は人数がとて多く、
神殿の奉仕は一度くじに当たれば次にはその機会
が与えられません。つまり、一生に一度の晴れの舞
台。長年祭司として務めてきたザカリアにとって、
人生の集大成でした。ところが、この「晴れの舞台」
で現れた天使はザカリアの口を閉じてしまいます。
ザカリアとエリサベトの間に子どもがいなかったこ
ともあり「ああ、ザカリアはやはり神に望まれてい
なかった」彼を知る人々はそう感じたでしょう。「務
めが終わり自分の家に帰っていった」というのも、
もう二度と人前に顔を出せないほどのショックを表
しているようです。

ですが、神はこの落ち込んでいる夫妻に「洗礼
者ヨハネの親」という大きな役割を担わせませす。神
は私たちを用いるためにあえて失敗させることがあ
ります。人の力や功績を私たちは求めるけれど、そ
こに神の求められるものがあるのでしょうか。人間
的にみれば失敗、つまづき、数字を生み出せない、
役に立たないように見える…実はそんな状態にこ
そ、計り知れない神様の御心が隠されているのです。

また、ルカ福音書はキリスト誕生の前にヨハネ誕
生に至るこのような出来事を、わざわざ記していま
す。昔はこの記述にまだるっこしさを感じていたの
ですが、キリストをお迎えする時に私たちは言葉を
奪われ、語ることをやめて沈黙せねばならないので
す。

私は子どもの頃、クラスの仲間とケンカ沙汰ばか
り起こしている時期がありました。先生に放課後呼
び出されて「一体どうしたの」「何があったの」と
問い詰められても何も言えませんでした。あれこれ
言われると余計に何も言えず、しまいには泣き出す
始末でした。「どうして大人はだまって僕のそばに
いて待ってくれないのか」と。大人になってみると、
沈黙を共にすることがいかに難しいか、沈黙の中で
痛みを聴くことのなんと大変なことかを思い知らさ
れています。

語ること以上に聴く者でなければならない。クリ
スマスの喜びを心から味わうために、まずは神の前
に静まらなければならない。クリスマスに洗礼を受
けられる人がいるでしょう。ある書物に『洗礼』に
ついてこう書かれていました。

「この世界は“私は何者なのか”としつこく問う
てくる。性志向、人生哲学、学歴、仕事、収入、
あれやこれやとしつこいくらいに。それに追い立て
られるように人は『自分探し』をしだす。しかし“私
は何者か”という問いに教会は『貴方は洗礼を受
けたキリスト者である』と答える。それ以外の答え
はいらない。自分探しの誘惑から、私たちはすでに
解き放たれ、守られているのである。」

いよいよ次週はクリスマス。静まって救い主をお
迎えしましょう。



「早天祈禱会の祈りより」

砂を噛むような毎日が続いている方々へ。必ず主が本当の永遠を与えてくださることを信じ、

祈り求めていく者となりますように。

恵 (列王記下・22)